

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：6/3～6/7

・ 6/3(月)

【特集】分断の言葉、日朝関係、天安門事件に菅官房長官「誠に遺憾」などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、【特集】分断の言葉および日朝関係については放送法上問題と考えられる場面が見られました。また、日朝関係については印象操作の疑いのあるシーンも有りました。

・ 6/4(火)

天安門事件から 30 年、丸山穂高議員への「糾弾決議案」共同提出へなどについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、特に問題と考えられる箇所は見られませんでした。また、天安門事件から 30 年については検証者の所感を記しました。

・ 6/5(水)

育休議連の発足、衆議院の解散風、#異論反論「男性の育休義務化」などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、衆議院の解散風については放送法上問題と考えられる場面が見られました。

・ 6/6(木)

安倍総理が在籍日数歴代 3 位へ、丸山議員「戦争発言」問題などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、安倍総理が在籍日数歴代 3 位へ、丸山議員「戦争発言」問題については放送法上問題と考えられる場面が見られました。

・ 6/7(金)

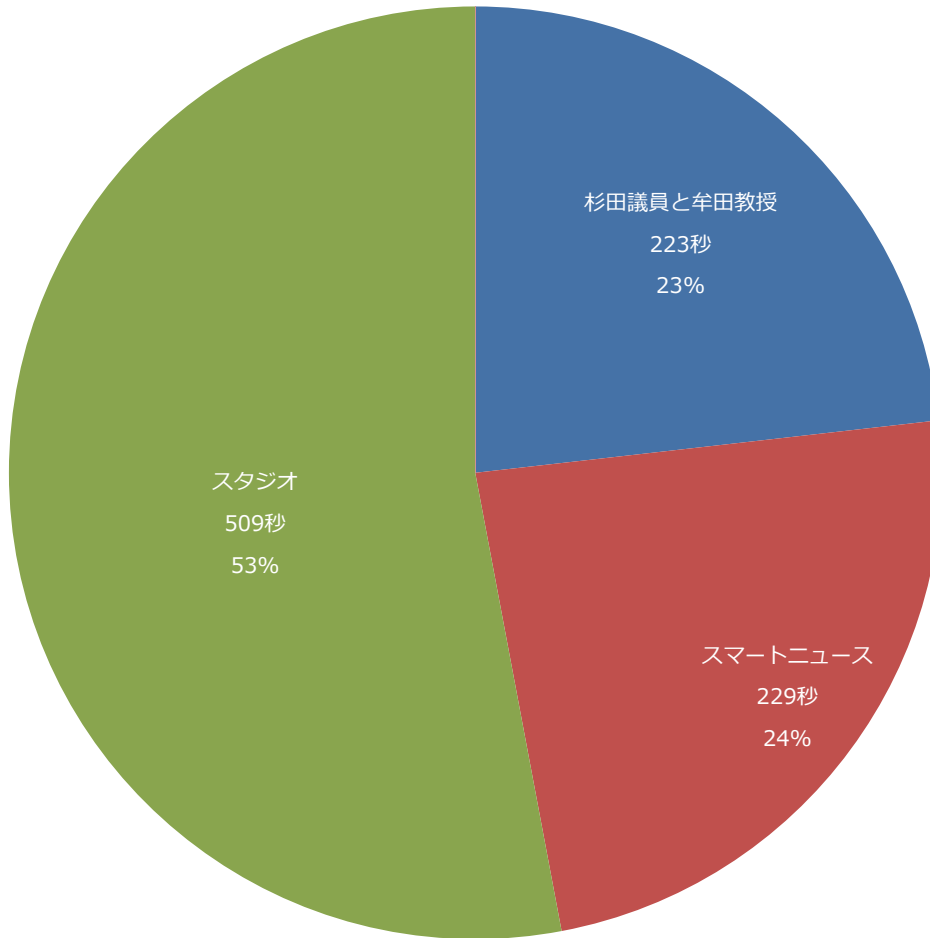
衆院解散、自民党参院選公約発表、「老後 2000 万円」金融庁報告書などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、放送法上は特に問題は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

| | | |
|--|------------|---------------|
| テレビ局：TBS | 番組名：NEWS23 | 放送日：2019年6月3日 |
| <p>出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕 ゲスト：鴻上尚史（作家・演出家）、西田亮介（社会学者）</p> | | |
| <p>検証テーマ：【特集】分断の言葉、日朝関係、天安門事件に菅官房長官「誠に遺憾」</p> | | |
| <p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区で元官僚が長男を刺殺 ・大阪府の高齢者ドライバーが交通事故 ・【特集】分断の言葉 ・日朝関係 ・NEWSTORIES 天安門事件に菅官房長官「誠に遺憾」 横浜市のシーサイドラインが逆走事故 環境省がレジ袋の無料配布禁止の法令 ・スポーツ報道 ・#異論反論「職場でのハイヒール強制」 ・天気予報 <p>ネットの分断</p> | | |
| <p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【特集】分断の言葉：結論→不十分 <p>ネット上で使われている言葉が今、人と人、社会の間に分断を生み出している一方でこれを阻止するための最新の試みも始まっているとの触れ込みのもとで、ネットと社会の分断が特集されていた。この特集に当てられた時間は961秒で、杉田議員と牟田教授の対立、スマートニュースの取り組み、そしてスタジオでのやり取りに大別され時間配分は以下の通りであった。</p> | | |



VTR では CM をはさみつつも以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「自民党の杉田水脈衆議院議員が去年、インターネット上である研究者への批判を展開しました。」

音声「反政府の政治活動なんですよ。」

ナレ「杉田議員が反政府の活動家とやり玉に挙げたのは大阪大学のジェンダー論の専門家、牟田和恵教授、一昨年作成した論文では慰安婦問題を女性の人権問題として論じました。この研究に国の税金から助成金が支給されていたことを杉田議員は問題視したのです。」

杉田議員 (Twitter)「捏造はだめです、慰安婦問題は女性の人権問題ではありません。」

ナレ「さらに、杉田議員はツイッター上で、反日活動、国益に反する、と激し言葉で非難しました。注目すべきはこうした杉田議員の言葉に触発された人々がいたことでした。」

牟田和恵「牟田和恵という学者、このような強硬化した反日売国奴が多い、」

ナレ「狂人化した売国奴、国益を損なう、面と向かってはともいえないような言葉がネットで増殖しました。そもそも杉田議員は牟田教授と直接会って話をしたことさへ有りません、しかしインターネットテレビで杉田議員は。」

音声「1755 万円、大きな額です、慰安婦問題が解決しないのは日本国内の右翼の言論家とか政治家のせいだとい

う論文を書いているんですよ。」 "

"牟田和恵「ねつ造とか研究費使用に不正があるとか彼女が発した言葉、本当にこう拡散してしまって、何十にも誹謗に使われているというのは非常に怒りを感じます。」

ナレ「牟田教授は損害賠償を求めて杉田議員を提訴、今も裁判が続いています。私達は杉田議員に取材を申し込みましたが、事務所を通じて係争中ですのでコメントは差し控えさせていただきます、と回答しました。一方、杉田議員自身も別の角度から攻撃的な言葉が向けられる事態が起きています。彼女が LGBT について生産性がない、と論じたことで。」 "

"抗議に来た人「生産性がないってどういうことなんですか。」

杉田議員「いや、一切。税金の使いみちとして生産性がないと言っただけで。」

抗議に来た人「おめーこそ生産性がない議員だろうがよ。」 "

ナレ「今年 4 月の統一地方選挙、杉田議員が応援演説の際に講義される映像を数人が撮影し、ネット上に拡散したのです、互いに歩み寄ることのない言葉のぶつけ合いがネットに広まっています。」

"ナレ「こうした現象を当のネット業界の人達はどのように見ているのでしょうか。私達は思想家の顔も持つ鈴木健さんに会いに行きました。スマートフォン向けのニュースアプリ、スマートニュースの共同創業者です。」

スマートニュース「スマートニュース、きさーまは？ きさーま？」

ナレ「クーポン情報も評判になりアプリのダウンロード数は実に 4000 万以上、ネット業界を代表する経営者の一人です。」

小川彩佳「インターネットは世界を良くする、社会を良くしていく、そういうビジョンっていうのはおありだった？」

鈴木健「半分イエスで半分ノーなんですけれども、僕が想像していたよりもインターネットと民主主義の危機というものが、おきたのが、まあはやく置きてしまった。」

ナレ「自身が身を置くインターネット業界の現状に強い危機感を抱いていました。」 "

"小川彩佳「いろんな意見を出してそこで議論を重ねていくっていうのが民主主義のプロセスですよ。」

鈴木健「まあお互いの意見を聞きあうというよりは、まあある種、攻撃し合おうというようなことが非常に大きく置きていて分断が加速してしまっているわけですよ。」

ナレ「他人の意見を受け入れられず分断が加速、それを食い止めるアプリがアメリカにあります。」 "

[CM]

"トランプ大統領「フェイク、フェイク、吐き気がするニュースだ。」

ナレ「今や分断の代名詞となったアメリカ、鈴木さん率いるスマートニュースはアメリカに進出し有権者たちがメディアをどう見ているのか調査を行っています。」

反トランプの男性「保守系のテレビは信じられない、特に以前、嘘をついたから。」

トランプ支持の男性「リベラル色の強いテレビは酷い、トランプの Twitter は見ているよ。」

ナレ「現在、アメリカでは自分の考えとは異なるニュースはフェイクと決めつける傾向が強くと見えます、この分断を乗り越えていくため、鈴木さんはアメリカのスマートニュースにある仕掛けを施してみました。例えばこれまではトランプ支持者なら閲覧履歴からその好みに応じた記事ばかりが配信されていましたが、スマートニュースでは反トランプの記事もバランスよく配信されるようにしてみたのです、実際にユーザーに効果が出て

いる例も出始めています。」 "

"使用歴 3 年の女性「ニュースの幅広さがすき、以前読んでいなかったものを読むようになった。」

ナレ「アプリのダウンロード数はアメリカで急増しました、しかし分断を乗り越えるにはそう簡単ではないとい
います。」

鈴木健「やっぱりアメリカ、いろんな街とか色んな人と話していて感じるのはそもそも大前提として共感の心
を持っていないんです、だからこの英語でいうとエンパシー、共感、ここにメスを入れていかないと、もしくはそれ
を増幅していくようなメカニズムを何らか考えていかないと究極的にこの分断の問題というのは解決できない
んじゃないかな、という気持ちがしています。」 "

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

小川彩佳「うーん、改めて、ゲストをご紹介します。鴻上さんと西田亮介さんにおこしいただいておりますよ
ろしくお願いいたします。あの私取材に行ってきたスマートニュース、効果は出ている、一方で本当に難し
いと思うのが、仮に自分と異なる言説の記事が表示されてもそれをタップしたりクリックしてもらって、更
にそれをしっかり読んでもらう、で理解しようとしてもらう、そこまで行くのにはもう 1 つ 2 つ仕掛けが必要
なのかと、その難しさが非常にあるなと感じたんですけども、これに対して鈴木さんは粘り強く一滴一滴し
ずくをこぼしていくように事実に基づいた質の高いコンテンツを提供し続けることにその中でなにかのきっかけ
に、あんな記事あったな、と発見してもらって、そういう土壌を粘り強く作っていく事が重要だというふうに仰
っていたのが印象的だったんですけども、この試み、西田さん広がっていくというふうに思われますか。」

"西田亮介（社会学者）「そうですね、あの、スマートニュースの取り組みはズバらしいと思います、その一方で
広がっていくのは難しいかなと思いますね。というのも政治に対して特定の強い嗜好を持っている人というのは
これもうほとんど好みの問題なんですね、別の証拠を見せたり、データを見せたりしても、ある好みというの
は変わらないことが多い、と。で、だとすると自分が好きな候補者や政党、価値観のデータばかりを見ていっ
てしまう、むしろスマートニュースがバランスよく見られてしまう、それが自分の好みに合わないのであれば、別の
プラットフォームに移って言うてしまうなんてこともありえますね。」

小川彩佳「ああ、自分の好みの情報ばかりを出してくれるプラットフォームに、」

西田亮介「そちらのほうが快適ですよ。」

小川彩佳「プラットフォームを出す側としてはどうですか。」

西田亮介「そうですね、でプラットフォームの側としてもビジネスの観点で考えれば多くのユーザーが見てです
ね次々とリンクをクリックして行って広告を見る、それで売上が上がっていますから、もしスマートニュースの
ような取り組みを行っているメディアがあるのであれば、そうじゃない方向に打ってくるメディアが当然出てく
る、ということだと思います、なので分断というのは技術の問題だけでは解決できないんじゃないか、という
ふうに考えます。」

小川彩佳「なかなかビジネスとなっている以上脱することはできない、と。まあでも自分と同じ意見をもった人
と同調していくことはそれ自体は悪いことではなくて、そこに敵対すると言うか違う意見を持っている人たちに
鴻上さん攻撃してしまう、敵対心をもってしまう、そこがいま非常に問題になっているわけですよ。これはど
うして生まれてしまうのでしょうか。」 "

"鴻上尚史（作家・演出家）「まあ、そもそもだからインターネットとスマホって僕ら人類が経験したことが

ないものをもって、付き合い方がまだわかっていない、で正解がまだ本当に一步一步確認していくしかないんだということがまずはっきりしていることで、まあ僕は前から正義の言葉っていい方をしているんですけども、要はインターネットとスマホをもって、もう戻れないよね、スマホは手放せないんですけど、スマホによって初めてフォロワーの数とかいいねとか、自分の自意識がどういふふうに見られているかっていうことを拡大する装置を僕たちは日常手に入れてしまったわけで。」

小川彩佳「自意識を拡大。」

鴻上尚史「自意識を拡大する、つまり自分がどう見られていて、自分の言葉がどう反応していて、何人自分をフォローしてくれていて、と僕ら子供の頃はそんなことは鼻を垂らしながら何の意識もなかったんだけど、今はもう本当に子供からインスタのあの子は何人フォロワーがいて、って小学生がもう会話しているわけで、どれだけ自分の言葉が伝わっているかということ宿命付けられた時代に入っちゃっているわけですよ。そうするとまずみんな素朴に何かを発信するんだけどそれは簡単に自分のうんちくとか好みはもっとすごい人がいるから否定されるわけで、そうすると否定されない言葉ってのは、まあ今回でいうと両陣営のそれに乗った自分が思う正義の言葉なわけですよ、これはもう基本的に大きなものに乗っている限りはどっち側でもそうですけれども否定はされないの、そうすると自分がまるで何かになったような気持ちになれるし、その片側の発想をしているだけでどんどんフォロワーも増えていくし、ってこの流れの気持ちよさを僕達は知ってしまったので、これはもう戻るわけには行かないんですよ、戻れないんですよ。」

小川彩佳「戻れないところまで来てしまっている、と。」

"小川彩佳「星さんはどうお考えになりますか。」

星浩「西田さん、そのね、その場合いろいろ規制のやり方が出てくるんでしょうけれども、その法律で縛るとかね、御上がやるとなるとまたちょっと問題はありますよね。」

西田亮介「そうですね、直接規制はおそらく言論の自由の観点からしても好ましくないと思いますね、なのでインターネットも従来の影響力が強くなっていますから業界の中で自主的にどの程度アルゴリズムのそうですね振れ幅を許容するのかとかですね、それから外資系企業に対してもプラットフォーム外資系企業が抑えていますから、自主規制や共同規制と呼ばれるようなボトムアップのルール形成の場にですね、参加するように促すのが良いのかなという印象を持ちます。」

小川彩佳「また、この快感を知ってしまった以上、この分断を鴻上さん、超えることって言うか埋めていくことはできるのでしょうか。」

鴻上尚史「なんと恐ろしい難しいことを、ただ、すごくはっきりしているのはどちらかの極端な意見に、つまり自分のアイデンティティをはっきりさせるために人を攻撃するというような方法で自分を確立しているという人はそんなに多くないわけでやっぱり両サイド右側も左側もある一定数がいるだけですからその間の割と理性的に迷っていて、こっちの意見もうなずくし、こっちの意見もうなずくな、とその人をとにかく増やしていくしかないと思うですよ。固まっているこの2つは悪いけど、僕去年不死身の特攻兵っていう9回特攻して9回帰ってきた人の本を出したんだけど、もう右も左も、右からは特攻を馬鹿にするのか、だし、左はそのなんだか偉いことになるし、ここはちょっと大変だなと思いました。でもこの間はなんとかなる。」

星浩「僕らは、まあそのメディアとして発信する側なんですけれどもやっぱりグローバル化もネットもね、結局人間が作ったものだから制御はできるはずですよ。その制御の仕方の問題だと思うんですよ、今その西田さん

が言われたようにどうやって規制をしていくか、自主的な規制が一番いいんでしょうし、それからもう1つやっぱりリテラシーというかネットをどういうふうにもううまく使いこなすかっていう教育もね結局必要になって来るんだと思いますよね。」

西田亮介「そうですね、まあただ教育の効果って言うのは時間がかかりますから、技術と経営、まあビジネスにですね委ねないという事が重要だと思います。我々がどんな社会を求めているのか、どんな言論を求めているのか、そういう価値の問題をですね、考えていく必要があると思いますね。」

小川彩佳「一方で思い出すのが先程お伝えしたような川崎の殺傷事件なんですけれど、容疑者は一人で死ねばいいという書き込みがネット上にあって、でも今回はそれに、いや、それはどうなのという反論があってネット上でも議論が沸き起こっていて、テレビを含めて渦となっていますよね。ちょっとずつ変わってきているものもあるのかなと鴻上さん思います。」

確かにネットが分断を可視化させたり促進させたりするという面は否めないだろう。しかし、事例として取り上げられていた杉田議員の例では、LGBT問題はそもそもの発端は新潮45という雑誌に寄稿した論文であるし、応援演説を行う杉田議員に抗議する人々の映像がネットで拡散されたというのもあくまでも現実での出来事がコンテンツとしてネットで波及したというだけの話であって、どちらも起点はインターネット以外の場である。またインターネットに先立って分断というものがある程度存在しているからこそ、こうした分断がネットを通じて見えるようになるといえる。確かにインターネットを介して私達は同じ社会に住む、あるいは同じ政府のもとで暮らす異質な他者というのを発見しやすくなったと言えるが、それは新聞やテレビと言ったオールドメディアと同様である。私達がテレビを付ければ画面の中には自分とはおおよそ異なるような考え方や価値観を持ちそれを実践する異質な他者を発見することができる。

このように考えると、昔から分断というのは存在していて、インターネットによってそれがより容易に発見できるようになったとは言えるが、インターネットが分断を生んでいる、というのはいささかインターネットや技術悪玉論に偏った見方である。社会の側がビジネスや技術を自主規制していくべきだという考え方も社会に内在していた分断というのを軽視した一方で技術やビジネスを否定的に捉えすぎているきらいがある。こうした論調が支配的であった特集は放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」および同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点で不十分なものであったと言える。

- ・日朝関係：結論→放送法上問題あり

日朝関係について以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

"朝鮮アジア太平洋平和委員会報道官（音声のみ）「安倍一味は面の皮が厚いようだ」

ナレ「安倍総理を名指しで批判したのは北朝鮮の朝鮮アジア太平洋平和委員会の報道官です、きっかけとなったのが安倍総理のこの発言です。」7

安倍総理「拉致問題を解決をするためにですね、あらゆるチャンスを逃さない、私自身が金正恩委員長と向き合わなければならない、条件をつけずに向き合わなければならない、という考えであります。」

ナレ「これまで首脳会談を行う前提として拉致問題の進展を上げていた安倍総理にとって方針転換と言えるものでした。北朝鮮の報道官は昨日、朝鮮中央通信の取材に対してこう答えました。」

朝鮮アジア太平洋平和委員会報道官（音声のみ）「平然として『前提条件なき首脳会談の開催』を云々する安倍一味は面の皮はクマの足の裏のように厚いようだ。安倍は日本政府の対朝鮮交渉の方針が変わったかのように述べ、執拗に平壤の門を叩いているが我が国に対する敵視政策は少しも変わっていない。」

ナレ「首脳会談を模索する一方で経済制裁を続ける日本の姿勢を批判したのです。北朝鮮が安倍総理の提案に公式に反応したのはこれが初めてです。菅官房長官は。」

菅官房長官「北朝鮮側の発信一つ一つにコメントすることは控えたい。条件を設けずに党委員長とあって率直に虚心坦懐に話をしたいという考えであります。」

ナレ「前提条件なしに首脳会談を目指す方針に全く変わりはない、と応えました。」 "

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

"小川彩佳「はい、まあ北朝鮮としてはアメリカと一対一でやり取りができるような状況になっているわけの中で日本の方を向かせるというのは相当難しいのかなと素人考えにも思ってしまうのですけれども。」

星浩「ただそのハノイ会談でね、米朝決裂しましたのでね、日本にとってはこれは北朝鮮とパッと接触するチャンスだったんですけれども、なかなか生かせなかったですよ、ね。」

小川彩佳「タイミングとしては今がチャンスでもあったと。」

星浩「そうなんですよ、やっぱりその、しかしトランプさんがこの対話の方に急変したために、日本もそれに引きづられましてね、北朝鮮に結局足元を見られるという状況になって、おそらく北朝鮮は制裁解除とかね、食糧支援を出せと言ってくるでしょうけれど、これ非常に難しいハードルになってしまいましたね、やっぱりその日本の国内的にもね国民にとっても今までの圧力路線からなんで対話になったのだというのもちょっとわかりにくいので、これはやっぱり安倍総理も何で対話路線になったのかというのをきちんと国民に説明する必要が出てきていると思いますね。」 "

このトピックに当てられた時間は 199 秒だった。

星キャスターは「その日本の国内的にもね国民にとっても今までの圧力路線からなんで対話になったのだというのもちょっとわかりにくい」とコメントしていたが、政府のスタンスはあくまでも「対話と圧力」であり、これは対話と圧力を臨機応変に組み合わせ使い分けるということであり、対話を排除したものではない。ところが、このコメントでは、政府の路線は圧力一辺倒で対話を排除したものであるかのような印象を与えてしまい、事実とは異なる情報提供となっている。これは放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」に抵触する可能性がある。

・天安門事件に菅官房長官「誠に遺憾」：結論→特に問題なし

天安門事件から 30 年を迎えるなかで、菅官房長官の「軍の実力行使による衝突の結果多くの人命が失われるという痛ましい事態に至ったことは誠に遺憾であると言わざるを得ないと受け止めています。」という発言が取り上げられていたほか、自由、基本的人権の尊重、法の支配は国際社会において普遍的な価値であり、中国においても保障されることは極めて重要と強調したこと、中国の人権を巡る状況については懸念を持って注視しており透明性をもって意思疎通を行う姿勢を示すことが重要だと直接伝達していると述べたとのことも報じられた。このトピックに当てられた時間は 61 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・日朝関係：やや問題

星キャスターのスタジオでの「その日本の国内的にもね国民にとっても今までの圧力路線からなんで対話になったのだというのもちょっとわかりにくい」というコメントは、「対話と圧力」が政権の基本方針であるにもかかわらず視聴者に対して「圧力一辺倒」という印象を与えてしまう恐れのあるものであると言える。

検証者所感

・【特集】分断の言葉

日本での分断の例として挙げられていたのはいずれも政治的なテーマや税金や財政を巡るものであったことは非常に興味深い点であった。西田教授はスタジオで「政治に対して特定の強い嗜好を持っている人というのはこれもうほとんど好みの問題」と言っていたが、個人的なことであればお互い自分の好みに従った選択をすれば済むという話であるが、政治においては徴税権力や財政といった公権力が「好み」を押し付けてくるし、「特定の好み」を選びやすくするために税制や財政を通じて私達の財布に手を突っ込んでくる。私達がそれぞれの好みに従って時間や金を使うのであれば、私達はお互いの選択を尊重することが容易にできるかもしれない。しかし他人の好みを満たすが自分の好みには合わないようなことのために自分の時間や金といった資源を費やすことを公権力によって強いられるのであれば、私達は他人の好みを尊重することが難しくなってしまうのではなかろうか。こうしたことを考えると、肥大化する政治や税制・財政こそが分断の温床となっているという考え方も可能である。

分断を考えるという割には、安直にインターネットに原因を求めるとするのは、いささか結論ありきで短絡的な議論であるかのように感じた。

NEWS23 週刊報告 詳細版

| | | |
|---|------------|---------------|
| テレビ局：TBS | 番組名：NEWS23 | 放送日：2019年6月4日 |
| <p>出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕 ゲスト：茂木健一郎（脳科学者）</p> | | |
| <p>検証テーマ：天安門事件から 30 年、丸山穂高議員への「糾弾決議案」共同提出へ</p> | | |
| <p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市で高齢者運転の車が交通事故 ・川崎の無差別事件から一週間 ・天安門事件から 30 年 ・ソフトバンクグループ孫会長に効く AI 時代の鍵 ・羽生九段が勝利数歴代単独一位に ・丸山穂高議員への「糾弾決議案」共同提出へ ・スポーツ報道 ・#異論反論「レジ袋有料化」 ・天気予報 | | |
| <p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天安門事件から 30 年：結論→特に問題なし <p>天安門事件を巡る中国の情報統制や、テクノロジーを駆使した中国の市民への監視が以下に朱記した VTR で取り上げられていた。</p> <p>"ナレ「いつもの朝、なにかが違っていました。」</p> <p>延耕次郎（報告）「午前八時半になりました。天安門の周辺では警察官が既に警戒にあたっています、通常よりもその数が多いように見えます。こちら、天安門に向かう道では今、交通規制が行われています。」"</p> <p>"ナレ「今から 30 年前の 1989 年 6 月 4 日、北京の天安門広場で民主化を求めた学生に対し、中国政府が軍を出動させ、弾圧しました。世にいう天安門事件です。死者は公式発表で 319 人とされていますが実際は数千人との隣液もあります、事件から 30 年となるのにあわせてアメリカのポンペオ国務長官は声明を発表『中国の一体体制は等の利益になるときはいつでも反論を認めず、人権を侵害する』と、中国共産党を厳しく非難しました。これに対し、中国外務省は夕方、会見で反論しました。」</p> <p>中国外務省報道官「他国の内政を干渉して自国の問題を無視している。口から出まかせ話は歴史のゴミ捨て場に捨てられるに決まっている。」</p> <p>ナレ「事件は学生等による動乱で解決済みとしている中国政府、事件についての厳しい情報統制を敷いて SNS などの監視などを強めています。中お g 区の鉄道予約サイトでは今朝、事件の日付と同じ 8964 という番号がついた列車が予約できなくなりました。事件を思い起こさせるとしての同等局が運休西鷹巣映画あります。テレビニュースにも影響が、中国で放送されているイギリスの BBC もニュースのたびに頻繁に遮断され映像が見られなくなります、天安門事件に関わる意見や当局への批判に神経をとがらせている中国政府、ネットでの統制とともに、力を入れているのが監視カメラです。」"</p> | | |

"ナレ「イギリスの調査会社によりますと 2016 年に該当などに設置された監視カメラの数は中国全土でおよそ 1 億 600 万台、今や中国のいたるところに設置されている監視カメラですが、実際に成果も上げています、中国中央テレビは今年 1 月、上海市公安局が 7 ヶ月で 40 人の指名手配犯を摘発したと報じました、中国での監視カメラの現状について専門家は。」

富坂聰（拓殖大学教授：中国政治）「今、全然警戒の対象になっていない人も、反政府的な具体的な行動をとって当局から目をつけられたらこれは他の年とは考えられないくらい情報が待てる裸になるということは間違いないですね。」

ナレ「北京市内ではこんな監視カメラが。」

奥野宏輝（報告）「この横断歩道を赤信号で渡った場合、この監視カメラが顔認証システムを使って撮影し、奥のモニターに表示されます。」

なれ「顔認証技術を使った特殊な監視カメラが交通違反した個人を特定します。そしてこちらは中国で去年行われた先端技術の国際展示会、顔認証技術を扱う企業のブースでは。」

企業担当者「最も使っているのが考案です、すべての地下鉄駅に配置されている。」

ナレ「AI、人工知能と顔認証技術を組み合わせてネットワーク化された監視システム。なぜ、ここまでして中国政府は市民を監視するのでしょうか。」

富坂聰「結局、いろいろその不満がありますから、いつも、中国の人々っていうのは、だからそこに火がついちやったらもうおしまいなんでね、すごく神経質になるのはそういう点があるっていうことですね。ものすごい危機感をもったということですね。」 "

"ナレ「天安門事件の際、学生リーダーだった男性が先週、都内で記者会見。事件以降中国政府への恐怖感が強くなったといいます。」

王丹（民主化運動の元学生リーダー 50 歳）「すべての民主国家が今こそ中国共産党の真の顔を再認識すべきときではないでしょうか。今日、中国は大国として台頭し、民主主義及び全世界の自由に対する脅威となっているのです。」 "

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「先ほど北京に駐在していた方にお話を伺ったのですが、いまや天安門事件は公に語ることさへタブーでもう事件を知ろうとするどころか、知らない若者の方が多くなっている、と。私もその事件があった時 4 歳の物心つかない頃でしたけれども今の若者の中心はもう事件の後に生まれた世代でもありますよね。」

星浩「まあこれはタブーになっていることは間違いないんですけど、私の知り合いのある学者に聞いてみたことがあるんですね、そしたらその『若者は民主化を目指したけど、封じられて今は体制の中で出世と金儲けを目指している』これ、当たり前のような言葉なんですけれども、私にとってはこの 30 年間のね、中国のなんか心象風景をなんかずっしりと物語っているような言葉だったという気がするんですね。」

小川彩佳「厳しい検閲で天安門という言葉を検査することすらできない、そうした中国の姿というのは国際的な批判を浴び続けると思いますよね。」

星浩「国際的にはこれ虐殺と言われてますよね、あの虐殺を起こしたのに未だにその政府は正しかったと言ってまして、検証もしていないわけですね、中国は今、世界第二の経済大国になっているんですけどもこの問題をね、克服しない限りは世界から尊敬される大国にはなりえないと、私は思いますね。」 "

NEWS23 週刊報告 詳細版

このトピックに当てられた時間は 423 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・丸山穂高議員への「糾弾決議案」共同提出へ：結論→特に問題なし

丸山穂高衆議院議員の戦争発言問題で与野党は糾弾決議案を明日合同提出することで合意したこと、糾弾決議案は丸山議員自ら辞職を判断することを求める内容になっていて明後日の本会議で可決される見通しであることが報じられた。このトピックに当てられた時間は 21 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

- ・天安門事件から 30 年

民主主義、基本的人権の尊重そして法の支配という先進国が共有している基本的な価値を中国は共有していないのでは、ということに切り込んだ内容でありある程度は評価できるものであった。米中の覇権争いと語られがちな貿易問題の背景には、こうした基本的な価値を巡る対立があることは重要なポイントではなかろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

| | | |
|---|------------|---------------|
| テレビ局：TBS | 番組名：NEWS23 | 放送日：2019年6月5日 |
| 出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕 | | |
| 検証テーマ：育休議連の発足、衆議院の解散風、#異論反論「男性の育休義務化」 | | |
| <p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市で高齢者運転の車が交通事故 ・競泳の池江選手が一時退院を報告 ・育休議連の発足 ・衆議院の解散風 ・23のオープニング曲について ・山里亮太と蒼井優の結婚会見 ・南伊豆町で船から覚せい剤が1トン発見される ・スポーツ報道 ・#異論反論「男性の育休義務化」 ・天気予報 | | |
| <p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育休議連の発足 <p>育休議連の発足を受けて、以下に朱記したVTRのように育休について取り上げられていた。</p> <p>"加藤勝信（自民党総務会長）「義務化、たしかにいま松野代表がおっしゃられたように非常にセンセーショナルな言葉になりますけれども、大事なことはその働き方をどうかえていくのか。」</p> <p>ナレ「今日発足した自民党の議員連盟、男性の育休取得を企業に義務付けることを目指しています。背景にあるのは取得率の低さです。昨日、厚労省が発表した昨年度の男性の育休取得率はわずか6.1%、政府は来年までに13%に引き上げることを目標に掲げ、徐々に増えていますが、目標の半分にも及んでいないのが現状です。こうした中独自の取り組みで成果を上げているのがこちらの大手保険会社です、まず対象の社員とその上司に育休の取得を促すメールを送ります、それでも申請がない場合には社員本人、ではなくその上司に直接電話をかけて念押しをするのです。」</p> <p>"大手保険会社人事担当者「所属長の方から部下へお話しをしていただくことで部下自身も取りやすかったですり、周囲への周知だったりとか協力を仰いだり、というところでもやりやすいかなというふうに思っておりますので。」</p> <p>ナレ「その結果、取り組みを始めた当初はわずか5人だった取得者は10年後の昨年度は117人今で増え、取得率も9割近くになりました。実際に制度を利用した表大地さん、31歳、長男の時に12日間、長女の時に19日間の育休をそれぞれ取得しました。」</p> <p>表大地さん「同世代もそうですし自分の親もそうですけど、あまり男性が育休を取るっていうイメージがないみたいで、育休を取るよと行ったらやっぱりびっくりはしてありましたね。」</p> <p>"ナレ「いざ、育休を取ると思わぬ気が、」</p> | | |

表大地さん「一日二日だとちょっと育児家事頑張れるんじゃないかなみたいな、心の何処かでそういう思いがあったんですけども5日も6日も続くとイライラが溜まって来たりっていうのはまた違う大変さがあるなというのはまたその時に感じました。」

ナレ「一方で嬉しい発見も」

表大地さん「単純にこの頃の子はこの頃しか見れないので、その時間が長いだけでもすごい私にとってはありがたいですね。」

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「さあここからは今回のこの育休議連のオブザーバーを勤めていらっしゃる産婦人科医の宋美玄さんにお話を伺って参りますよろしくおねがいます。宋さんは男性の育休を推奨されているらしいんですけども、その産婦人科にいらっしゃるご夫婦、特に旦那さんはどういう反応をされますか。」

宋美玄（産婦人科医、育休議連のオブザーバー）「そうですね、まずそのご夫婦で妊婦健診とか検査に連れてこられた場合には、割とわざと育休は取られるんですかと話題を降るようにしているんですね、それで、あっ男性の育休ってあったなってことに気付いてもらうようにしているんですけども、まあいろんな方がいらっしゃるんですけども、一番多いのはその発想はなかったとか、なんかああ休むとかは無理ですね、みたいな方がまだまだ多いのかなと思うのです。一方で男性も我が子の誕生には立ち会いたい方が多くて、その有給とかも予定日周辺で山を張って使い果たしてしまって、本当はその女性の体っていうのは産後がすごく大変なんです。」

"小川彩佳「その後が大変なんです。」

宋美玄「そうなんです、出産自体がすごく大変なんですけれども、その胎盤が剥がれて出ていった後に、もうそれまで通常の150倍から200倍に増えていた女性ホルモンが数時間で額って減ってその後体も傷ついた状態でホルモンも出ない状態で、さらに授乳をそのタイミングで何回も何回もやらないと出るようにならないというメカニズムになっているんですよ、なので、立ち会うのもまあ大事なんでしょうけども、奥さんが退院してから奥さんが極力寝たきりで体を休めるように頑張ってくださいね、っていうことを話しています。」

小川彩佳「精神的な不安も肉体的な不安も一緒に分け合っていかなければならない、と。言う中でじゃあなぜ男性がなかなか育休を取れないのかアンケートがあります。育休を取得しなかった男性の理由なんですけど、上位は職場の人手不足(27.8%)だったりとか、制度が整備されていない(27.5%)、取得しづらい雰囲気がある(25.4%)、自分にしかできない仕事がある(19.5%)など、こうしたことが上がっているんですね。」

"宋美玄「まああの、女性は産休っていうそれは取るのが法律で義務なんですけど、で男性の育休は制度としてはおそらくかならずあるんですけども、取得する本人が申請しないとできないシステムになっているので、日本は結構制度は揃っているんですけども、制度より風土とよく言われてまして、その取るって雰囲気がないっていうので言い出しづらい、なのでまあ育休を義務化することでそれはプッシュ型で企業の方から取らせるようにしましょう、となってきたと思うんですけども。」

小川彩佳「育休に対するイメージをまず変えていかなければならないというところはありますよね。」

宋美玄「そうですね、まあ10年前まではこの育児を男性がやるって言うところとちょっとなんか保育園のお迎え恥ずかしいところが今や俺イクメンみたいなSNSアップみたいな感じなので育休男子も持ち上げれば増えるんじゃないかなと思うんですけども。」

小川彩佳「まあね、その上の世代が上司の方が変わっていかなければならないとも思うんですけども星さんあ

りますよね。」

星浩「そうですね、まあ私達の世代はそういう制度もなくしてそういう意味では罪の滅ぼしのためにその制度を整備してもらいたいと思いますよね、企業も行政も全力を上げてやってもらいたいと思いますし、そのためには法整備必要ですよ。」 "

"宋美玄「やっぱりその義務化も大事ですね、やっぱり令和の時代はブラックだったりとか育休を取らせないというのが炎上して企業のリスクになる時代なので、もう取って取ってってものをリスクマネジメントとしてやっていくのがいいのかなとも思うんですけども。」

小川彩佳「そうですね、まあ女性としても考えるのは第一線で働きたくても一番頑張りたい時に結婚だったり出産だったりとか一気にこう直面しなければならない問題として出てくる、その中で育休を機械喪失に怯えながら取っている中で、男性と同じ問題を抱えているわけですよ。」

宋美玄「そうですね、なんか採用の問題とかでも、もし性別に関係なく子供をもったら暫く休むということになればやっぱりこう女性を敬遠する理由というものもなくなっていくのかなと思うのでそういう意味でも普及してほしいですよ。」 "

このトピックに当てられた時間は 474 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・衆議院の解散風：結論→問題あり

解散風について以下に朱記したように VTR で取り上げられていた。

"ナレ「総理の専権事項である衆議院の解散、その解散を巡って様々な憶測が広がる中、今日、与党の幹部から気になる発言が。」

記者「必要性に応じて延長も検討されるという考えはおもちでしょうか。」

森山裕（自民党国対委員長）「必要があればそういうことだと思います。」

なれ「自民党の森山国対委員長が国会の会期を延長する可能性に触れたのです。政府は今の国会に人工知能などを活用した都市づくりを目指すスーパーシティ法案を提出する方針です。森山氏は会期内の成立を目指すのが基本、としています。が、今月 26 日に会期末を迎える国会を小幅延長し、今月末に予定されている G20 大阪サミットの終了後に解散に踏み切るのではという見方が出始めています。」 "

"ナレ「野党側は反発を強めています。」

福山哲郎（立憲民主党幹事長）「会期延長論とか、解散風を吹かす暇があったらしっかり国会での仕事を、職責を果たしていただきたい。と。」 "

"ナレ「ただ、与党幹部からはこんな声も、」

与党幹部「法案は閣議決定をして国会に出すだけ、通すつもりなし、解散風が吹いていけば野党を分断できるのでそれだけでも効果ありということ。」 "

"ナレ「このところ、連日自民党の幹部と会合を重ねている安倍総理、おとといは岸田政調会長と、昨日は二階幹事長が官邸を訪れました。」

記者「選挙の関係の話は？」

二階幹事長「今日はその生臭い話はしていませんが、そこは阿吽の呼吸でね。」

ナレ「ここへ来て突如吹き始めた解散風、果たして総理の胸の内は。」 "

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

"小川彩佳「うーん、またにわかにざわざわとしてまいりましたけれども、まあ国会開会中でなければ解散はできないわけですよね、ただ G20 の終了後に解散という見方がある、これはどういうことでしょうか。」

星浩「例えばね、国会中に解散した自体を考えますとね、日本中が選挙ムード一色になりますよね、もう外交が霞んじょうというのがありますよね、それからね、解散しちゃいますと衆議院議員は失職しますのでサミットでその接遇する閣僚とかですね、副大臣が国会議員じゃなくなっちゃうんですね。まあそういうことを避けるために会期を延長して 7 月に入ってから解散をすればいいと言うことになってくるんですが、そうするとまあ会期延長をちらつかせるだけでこれはもう解散だな、ということになってくる、と、そういうまあ仕掛けになってるわけですね。」

小川彩佳「解散風を吹かせるための会期延長を匂わせると、そうなるともう本当に解散っていうのはどうなるんですか星さん、あるんですか。」

星浩「今回の解散風の特異な点は 2 つありましてね一つは志賀官房長官が慎重それから公明党が反対しているっていう中でやるということですね。それから大義がはっきりしないんですね、まあ北方領土の返還が動き出せばね、これが大義になったんでしょ、それがまあ動きませんので、こういう大義がない解散っていうのはなかなか今までなかったケースですよ。で、ただその、おそらくね、解散と言ってもこの新しい法案はおそらくやる気ありませんので、実質的には解散も法案の審議もないんじゃないかと見ているんですけどね。解散というか延長もこの法案審議もないんじゃないかと見ているんですね。」

"小川彩佳「じゃあなんでこう解散風を吹かすのかということですが。」

星浩「例えば、その参議院の時に野党 A と野党 B が一緒にやりましょうと共闘していますよね。これが衆議院の選挙も一緒だとなるとその A と B 両方、自分の衆議院の選挙区に戻らないといけないということになるので、野党は非常に混乱するという事なので、まあそれを狙って解散風を吹かしているんですね。」

小川彩佳「野党の混乱を誘うというわけですね。」

星浩「そこでやっぱり最終的な山場は 19 日、党首討論、その安倍総理は勝てるならやりたい、というきもちはまあありありですので党首討論でどういうディベートがあるか、そこで場合によっては解散というのもないわけではない、という可能性もないわけではないというのが現状だと思います。」

小川彩佳「なんかの発言があるかどうか、19 日が山ということですか。」

このトピックに当てられた時間は 296 秒だった。

スタジオでは星キャスターが「こういう大義がない解散っていうのはなかなか今までなかったケースですよ。」とコメントしていたが、これまでの衆議院解散を振り返ってみて、大義らしい大義のあった解散がどれほどあったのだろうか。むしろ、大義のない解散のほうが常態であり、大義のある解散のほうが稀だったと言える。少なくとも野田政権での解散や麻生政権での解散になにがしかの大義があったとはとてもいえない、レームダックと化した政権が成り行きなし崩しで行った解散といえる。この点を見ても、星キャスターの「こういう大義がない解散っていうのはなかなか今までなかったケースですよ。」というのは明らかに事実に反するものであり、放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」に反するコメントであると言える。

・#異論反論「男性の育休義務化」

NEWS23 週刊報告 詳細版

男性の育休義務化の動きについて以下に朱記したように VTR で街の声が紹介された。

ナレ「先程もお伝えした男性の育休取得、義務化を目指す動きにあなたは、異論反論。」

"女性 A「三人子供がいるの主人が一ヶ月位育児休暇を取ってくれてすごく助かったので賛成です。」

女性 B「意識が変わるなら別に 1 週間くらい取ったらいいかなと思うんですけども、ただ休みになるだけなら要らないかなって感じですね。」

男性 A「一人で大変だと思うので一緒に育休とってあげたいなってのもあるんですけども、ってなるとどうしても生活するってなった時にお金の面とかちょっと厳しいかなってのがあって。」

男性 B「義務化にしたところで多分会社によってもその取りやすい風土と取りにくい風土ってあると思うので、多少の効果はあると思うんですけども、もう無理な会社は無理だろうな、と。」

男性 C「男で取ってる人いないので、うちの会社は聞いたことがないので、義務化になればどうしても取らなきゃいけないって考え方に変わってくるのでそれは全然ありだと思います。」

またスタジオでは"小川キャスターの「あっ、そしてここにも育休取得経験者が、石井さん。」という呼びかけに石井キャスターが「そうですね、私先月先々月と少し育休を取らせていただいたのですが、やはり本当に妻がこれからずっとやることをちょっとでも経験できたっていうことが自分にとっても非常にプラスですし。」と応えていた。

また、番組のクロージングでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

"小川彩佳「さぁ先程途中になってしまいましたけど石井さん。」

石井大裕「もうね、語り始めたら終わらないというのが本当に自分の思い出もありまして、はっきり行ってこうして仕事をしている方が楽です。もう本当に、育児についてはそれぐらいの今思い出子供と向き合っています。」

小川彩佳「一緒に育てていくという気持ちが星さん。」

星浩「まえ、環境にどれだけ貢献しているかって企業で競争したことがありますけど、今度その育休取得競争を企業同士でやればいいと思いますね。」

小川彩佳「そういう企業を学生さんたちが目指してね。」 "

このトピックに当てられた時間は 126 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

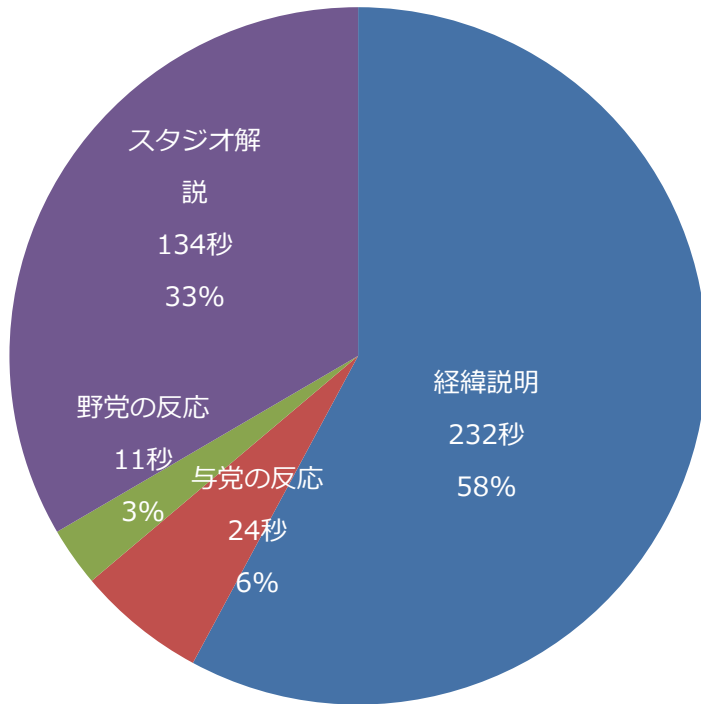
特になし

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

| | | |
|--|------------|-------------|
| テレビ局：TBS | 番組名：NEWS23 | 放送：2019年6月日 |
| 出演者：【キャスター】小川彩佳、山本恵里伽、星浩、石井大裕、村瀬健介 | | |
| 検証テーマ：安倍総理が在籍日数歴代3位へ、丸山議員「戦争発言」問題 | | |
| <p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安倍総理が在籍日数歴代3位へ ・丸山議員「戦争発言」問題 ・金融庁発表に波紋 ・【特集】最新鋭旅客機墜落問題 ・高齢者ドライバーの事故 ・横浜で地下鉄脱線 ・スポーツ報道 ・異論反論 Objection <ul style="list-style-type: none"> ・金融庁発表に波紋 ・天気予報 | | |
| <p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安倍総理が在籍日数歴代3位へ→結論：放送法第四条第一項二号「政治的に公平であること」に抵触。 <p>今回は安倍首相の首相在籍日数が2720日となり、在籍日数が伊藤博文氏と並び、第三位となったことが伝えられた。それに伴い、これまでの成果と今後の課題に焦点が当てられる形で報道が続いた。今トピックに充てられた報道時間は401秒で、経緯説明・与党の反応・野党の反応・スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。</p> | | |



報道の内容は以下の通り。

小川「ではまず最初のニュースです。まずはこちらです。2720日。これは今日までの安倍 総理の総理在籍日数です。初代の伊藤博文と並んで歴代3位となったわけですが、これまでに何を成し遂げてきたのか、そしてどんな課題が残っているのか。」

ナレーター「表敬訪問のため総理官邸にやってきた吉本新喜劇のメンバー。待つこと10分、彼らの前に現れたのは……。偽物でした。そして本物の安倍総理が登場し、和やかなひとときを過ごしました。安倍総理は今日、通算の在籍日数が、2720日となり初代内閣総理大臣伊藤博文と並びました。政権を維持すれば8月23日に佐藤栄作元総理と並び戦後最長に、11月19日には桂太郎元総理と並び憲政史上最長に。」

安倍総理「皆様に約束した一つ一つの政策をしっかりと前に進めていくことによって、その責任を果たしていきたい。」

ナレーター「長期政権をけん引している理由の一つが景気です。大胆な金融緩和政策などを打ち出したアベノミクス。第二次安倍政権当初と比べると平均株価は2倍になっています。ただ、景気回復の実感はないとする人たちは9割近くに上っています。また、安倍総理の強いこだわりで実現したのが集団的自衛権の行使を可能にした安保法制。2015年大混乱の中成立しました。長期政権について野党は。」

辻元清美美国対委員長（立憲民主党）「この2720日のうちに、今までの歴代の政権ではなかったことや、やってはいけないことを一杯やられたと思います。」

"ナレーター「また自民党の閣僚経験者からはこんな声が上がります。」

自民・閣僚経験者「長ければいいというものではない。何をしたかだ。」 "

"ナレーター「明治憲法を制定した伊藤博文や、沖縄返還を実現した佐藤栄作元首相。こうしたレガシー =政治的遺産を残せるかが今後の課題となりますが。拉致問題の解決に向けた日朝首脳会談の進展は見え、北方領土の帰属をめぐる日ロ交渉も思うように進んでいません。こうした中で注目されるのが安倍総理悲願の憲法改正です。ここへきて衆議院を解散し、憲法改正を争点とした衆参ダブル選挙で信を問うのではないかとの見方が浮上しています。今日の吉本新喜劇との会談ではこんな場面が。」

新喜劇「総理と二人で（ネタを）やってみましょうか。僕やらせてもらえたら聞きたかったなあ。総理のところに パーンって。衆参同日あんのかーいって。」 "

レーター「今日のところは笑顔でかわした安倍総理ですが、判断の時は迫っています。」

小川「笑顔で無言ということでしたが。課題はレガシーという話もありましたが。一国民としましては例えば待機児童問題ですとか、これからお伝えしますが、人生を安心して全うすることのできる制度設計ですとか、そうした足元のレガシーと言いますか、小さなレガシーといってもいいかもしれません。そうした小さなことを積み重ねていってもらえればと思いますけれども。」

星「そうですね。やはり一つの節目ですので二つのポイントに分けてお話したいと思いますが。まずはレガシーですよね。私たちの記憶にあるのは、竹下総理が消費税を導入したとか、小泉さんが郵政民営化をやったとかありますので、安倍総理から憲法改正をやりたいのしょうがなかなかうまくいっていないところでしょうね。私はですね、これは強力な政権ですので、この力を使って子育ても含めた社会保障の抜本改革に本当は取り組んでもらいたいというのが私の実感ですね。」

小川「そうしていただきたいという思いがありますけれども、大きなレガシーと言いますか、憲法改正でいいますと、安倍総理このままだと難しいということで四選という話が出てきています。」

星「もう一つのポイントなんです、長期政権どうなるかということですが、実は今の政治の底流で何が起きているかということ进行分析しますと、一つはこれだと思うんです。やはり もう一回 2年後に、総裁選挙をやり、四選をして憲法改正に挑むと。それには時間がかかりますよと。まあ、安倍総理の周りではちらちらと出始めていると。そのために今回の会期末に解散をして、足元を固めたいというのが一つのステップだと思いますね。一方、これだけ長くやりますと自民党の中ではこんな意見も出始めていると。4選は無理だからそろそろ後継に渡すことも考えたらどうだろうなどという意見も出始めていると、この二つの意見がこれからせめぎ合うんだろうなと思います。そういう意味では先ほど出たレガシーづくりと、自民党の中の二つの流れがこれからどうなっていくかその辺が見どころかなと思って見ているんですけどもね。」

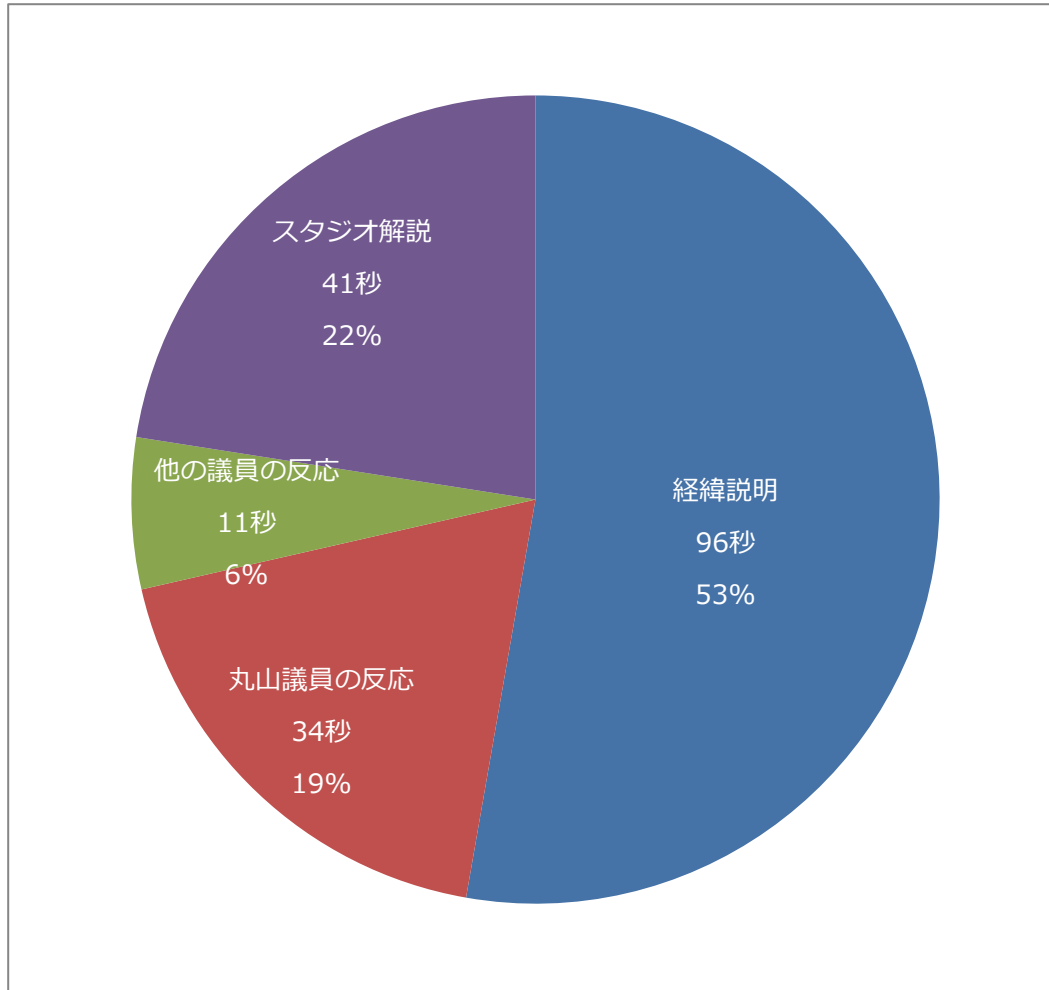
時間配分は「野党の反応」に比して「与党の反応」が大きい割合であることが分かる。これは放送法第四条第一項二号「政治的に公平であること」に抵触していると考えられる。

しかし、報道の中身で考えると、閣僚経験者の言葉は安倍首相の在籍日数に対して厳しい視線を向けていることが分かる。この点で考えると時間配分での問題は、中身に関して大きく問題があるという指摘は難しい。

・丸山議員「戦争発言」問題→結論：やや問題あり

今回は「戦争発言」が尾を引く丸山議員に対して衆議院本会議で丸山議員が進退を判断するよう促す内容の糾

弾決議が全会一致で可決されたことが伝えられた。今トピックに充てられた報道時間は 182 秒で、経緯説明・丸山議員の反応・ほかの議員の反応・スタジオ解説に焦点があてられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。



報道の内容は以下の通り。

小川「続いてのニュースに参ります。北方領土をめぐる戦争発言などで物議をかもした丸山穂高衆院議員に国会の意思が示されました。」

山本「就任は自ら進退を判断するよう促すという糾弾決議を全会一致で可決しました。」

ナレーター「衆議院本会議で丸山穂高衆院議員に対する糾弾決議が全会一致で可決されました。決議では国会議員としての資格はないと断ぜざるを得ないとして、自ら進退を判断するよう促しています。発端となったのは先月、丸山議員がビザなし交流で北方領土を訪れた際の発言でした。」

"丸山議員「団長は戦争でこの島を取り返すことには賛成ですか、反対ですか。」

団長「戦争で？」

丸山議員「ロシアが混乱している時に取り返すのは OK ですか？」 "

大塚小弥太訪問団長「ああいう国会議員もいるんだね。なぜ戦争で取れっというのか。おかしいんじゃないのか。」

ナレーター「丸山議員は戦争発言以外にも卑猥な発言を繰り返し、禁じられた外出を試み周囲に制止されたこと

が分かっています。決議が全会一致で可決された中でこの人は。」

小泉進次郎衆院議員「私は出席せず、のりませんでした。みんなで糾弾するっていう、そういったことに自分の中でも腑に落ちなかった。」

ナレーター「自民党の小泉進次郎衆院議員は選挙で判断されるべきと採決を棄権しました。そして当の丸山議員はツイッターで、『行蔵は我に存す。』自らの行いは自分の信念によるという勝海舟の言葉を引用したうえで、任期を全うし前に進んでまいりますと、改めて議員辞職しない考えを表明しました。」

小川「辞職しないという考えを改めて宣言することになりますが、ロシアの駐在経験のある記者の取材によりますと、日ロの外交関係者によりますと、丸山議員の戦争発言に対して、ロシアの外務省の幹部ですとか大統領府が激怒していたとして、今後の G20 などでの日ロ間のやり取りは難しいかもと漏らすほどだったということなんです。今のように国内での動きをお伝えしていますが、国際政治の舞台で国益を大きく損ねかねない事態を招いている、そうした発言だったということがうかがえます。」

時間配分で見ると、「丸山議員の反応」が「ほかの議員の反応」に比して多い割合を占めていることが分かる。これは放送法第四条第一項二号「政治的に公平であること」に抵触している可能性が存在している。

しかし、今トピックの報道では評価できる点も存在している。小川アナウンサーの解説では次のように述べられている。「辞職しないという考えを改めて宣言することになりますが、ロシアの駐在経験のある記者の取材によりますと、日ロの外交関係者によりますと、丸山議員の戦争発言に対して、ロシアの外務省の幹部ですとか大統領府が激怒していたとして、今後の G20 などでの日ロ間のやり取りは難しいかもと漏らすほどだったということなんです。今のように国内での動きをお伝えしていますが、国際政治の舞台で国益を大きく損ねかねない事態を招いている、そうした発言だったということがうかがえます。」

丸山議員の「戦争発言」問題は往々にしてその発言の倫理性が問題視されるものであった。しかし、今トピックにおける小川キャスターの発言はロシア側の反応を取り上げたという点で今回の問題の視点を広げる内容であるといえる。その意味で今トピックは放送法第四条第一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして評価できる内容と言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

| | | |
|---|------------|---------------|
| テレビ局：TBS | 番組名：NEWS23 | 放送日：2019年6月7日 |
| 出演者：星浩、小川彩佳、山本絵里伽 | | |
| 検証テーマ：衆院解散、自民党参院選公約発表、「老後 2000 万円」金融庁報告書 | | |
| <p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨入り、警戒レベル4の大雨相次ぐ ・国会会期末が迫る中、政府がスーパーシティ法案を提出 ・自民党が参院選に向けた公約を発表 ・元 KAT-TUN 田口被告、保釈でカメラに向けて土下座 ・上皇后さま、近く心臓の検査を受けることを発表 ・麻生財務相、老後に 2000 万円が必要とした金融庁の報告書について「不適切だった」と釈明 ・2018 年生まれの新生児の数、過去最少に ・内閣府が4月の景気動向指数を発表、2か月連続で「悪化」 ・露プーチン大統領、平和条約締結に向けた障害に「日米の軍事協力」と主張 ・糸井重里氏インタビュー ・スポーツ報道 ・(速報) 米露の軍艦が異常接近、双方が非難 ・天気予報 | | |
| <p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衆院解散：結論→特に問題なし 今回の報道は、国会にて衆議院の解散をめぐって疑心暗鬼が生じていることについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 252 秒だった。 なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 ・自民党参院公約発表：結論→特に問題なし 今回の報道は、自民党が今夏の参院選に向けた公約を発表したことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 210 秒だった。 なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 また、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。 小川キャスター「自民党の公約が発表されましたが、最初に来ていたのが外交で、そのなかで北朝鮮に対する書きぶりが変わったみたいですね」 星キャスター「北朝鮮について、2年前は圧力強化を主導するとやけに勇ましかったのですが、今回は核・ミサイルの解決を目指す、この言葉（圧力強化を目指す）が無くなっているのですね。その圧力についてですが、2年前は公約の4ページのところに圧力強化を主導と書いてありましたが、今回は付属文書的なところに小さい字で国際社会と結束して、圧力を最大限に高めると書いてあるだけなんです。公約としては事実上格落ちした | | |

NEWS23 週刊報告 詳細版

ということで、安倍総理は無条件で首脳会談をと言っているのですが、首脳会談をと言いつつ最大限の圧力をという言葉が残っていたり、ちょっと中途半端なメッセージなので、北朝鮮側にどこまで伝わるか、なかなか難しいと思いますね」

小川キャスター「どっちつかずになっていると。もう一つ気になるのが安倍総理が訴え続けている憲法改正についての書きぶりなのですが、こちらはどうか」

星キャスター「時期を明示せずに、早急に改正ということで、そういう意味では今回の参院選で最大の争点にしたいくないという配慮がありありなのと、公明党にも気を使っているなど」

小川キャスター「それでちょっと控えめになっていると。これから各党の公約が相次ぎますが、私前回の自民党の公約に触れましたが、前回の公約がいかに実行されたか、されなかったかというところも」

星キャスター「その点検も大事ですよ」

- ・自民党参院公約発表：結論→特に問題なし

今回の報道は、麻生財務相が金融庁が発表した老後の生活試算に関する報告書の内容について「不適切」と批判したことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 23 秒だった。

なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし